

# 茶臼岳・上河内岳 山行報告

【山域】南アルプス南部

【ルート】茶臼岳登山口～茶臼岳～上河内岳～茶臼岳登山口

【登山方法】小屋泊まり縦走

【参加者】CL 鈴木憲二 鈴木愛子（記録）

【行程】

7/23（月）千葉 14:30⇒新静岡 IC⇒白樺荘 19:10 駐車場で車中泊

7/24（火）白樺荘 6:40 発のバス⇒茶臼岳登山口 7:10→ヤレヤレ峠 7:47→ウソッコ沢避難小屋 8:55  
→中ノ段 10:00→横窪沢小屋 10:55→茶臼小屋 14:00 着（泊）

7/25（水）茶臼小屋 5:10→5:45 茶臼岳 6:05→8:08 上河内岳 8:30→10:00 茶臼小屋 10:20→  
横窪沢小屋 12:10 着（泊）

7/26（木）横窪沢小屋 5:35→ウソッコ沢避難小屋 6:53→ヤレヤレ峠 7:57→茶臼岳登山口 8:40 着  
⇒10:40 発のバス⇒白樺荘 11:00 着 白樺荘で汗を流し、帰葉

【記録】

○7/24（火） 天気 晴れ時々曇り

茶臼岳と上河内岳は初めて登る山である。頑張ろうという意欲とワクワクしながら、白樺荘発 6:40 の朝 1 番のバスに乗り、茶臼岳登山口で降りる。7:10 登山開始。歩き始め、すぐに大吊橋が待っていた。長さ 181.7m の吊り橋、ちょっと怖いなと思いつつ、慎重に渡る。渡るとすぐ急登、シラビソと広葉樹の混ざった樹林帯の中を歩く。暑い日差しが直接当たらずにいいなと思いつつ歩く。小さなアップダウンを繰り返して、ヤレヤレ峠に 7:57 着。本当にヤレヤレである。



茶臼岳登山口にて



大吊橋（長さ、181.7m）にて

ここから広葉樹が多い中、急坂をいっきに沢を目指して下る。広葉樹の緑が太陽を浴び、輝いていて美しい。沢沿いを水の音を聞き、流れを眺めながら気持ちよく歩く。小さなアップダウンを繰り返して、3本の吊り橋を渡り、鉄の梯子を登ったら、まもなくしてウソッコ沢小屋（無人小屋）に着いた。ウソッコ沢小屋のすぐ手前の水場の水が冷たくてとても美味しかった。

ウソッコ沢小屋を過ぎ、また吊り橋を渡り、ジグザグの急坂を登り、中の段を過ぎ、横窪峠に着く。木々の間より、横窪沢小屋の赤い屋根が見え、嬉しくなる。そこから横窪沢に下り、それから少し登って、横窪沢小屋着 10:55。小屋に着くと、すぐに小屋番の方が冷たい麦茶を出してくれた。ここまできつかったので、とても美味しく嬉しかった。何十年も山を歩いていて、無料で冷たい麦茶を

出してくれた山小屋は初めてである。小屋でりんごを買い、少し早い昼食を取り、ゆっくり休憩をする。

更に歩を進める。シラビソの深い森の中、急登が続く。励みになる花もない。眺望もない。たまにイワウチワの葉の群落があり、その花の咲いた状態を想像したり、10cm位のどんぐりやもみじの小さい木が可愛くて、それらに励まされ、登る。

横窪沢小屋と樺段の間の1880m位の所に小さなお地蔵さんがあった。登山の無事をお願いして合掌する。横窪沢小屋の方に、25日に泊まった時に聞いてみたら、あの辺りで測量士の方が滑落して亡くなり、その方の慰霊のために建立された由であった。そのお地蔵さんの所前後の登山道は、片側が急斜面で切れていて登山道も人が一人通れるだけの狭い道で、慎重に歩を進めなければならない所があった。



横窪沢小屋の前に咲いていた名前の分からない花



1880m位の所にあったお地蔵さん

更に歩を進め、2200m辺りから高山植物がちらほら見られるようになってきた。ハクサンフーロ、オトギリソウ、シナノキンバイ、アキノキリンソウ、マルバタケブキ、ゴゼンタチバナ等々が咲いていた。ここまで急坂の連続できつかったので、花たちに会えると、嬉しくて元気が出る。それからまもなくして茶臼小屋で14:10到着。小屋の周りは、水が豊富で色々な花が沢山咲いていて素敵な所であった。上記に書いた花の他に、トリカブト、マツムシソウ、ニッコウキスゲ、ミヤマシシウド、トラノオ、ヨツバシオガマ、ほか名前の分からない花等々が沢山咲いていて綺麗であった。



マツムシソウ



イチヤクソウ?



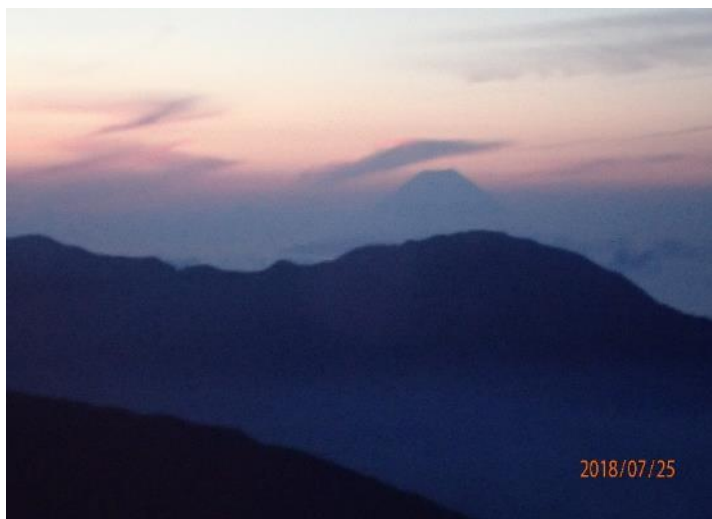
アキノキリンソウ



今日は茶臼小屋に泊まる。小屋から稜線まで往復 25 分、稜線まで行けば夕焼けが見られてと思うのだが、疲れちゃって見に行く元気がなく、行かなかった・19:00 には明日の晴天を祈りながら、眠りについた。

○7/25 (水) 天気 晴れ

4:00 起床。小屋の前でご来光を見ようとしたが、残念ながら朝日は雲の中であった。でも朝焼けの雲の中、富士山の頭が、綺麗に見えた。



茶臼小屋の前での朝焼けの富士山

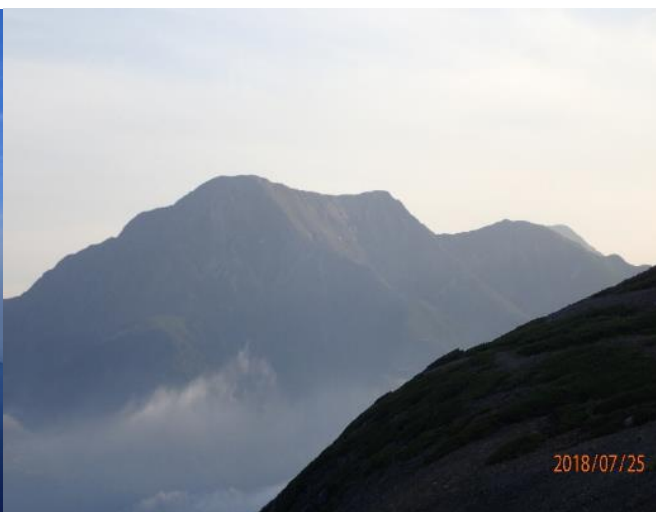


シナノキンバイ

4:30 朝食。茶臼小屋発 5:10 二日目の茶臼岳・上河内岳登山の開始。まず茶臼岳に向かう。15 分位で稜線に出る。前方に茶臼岳、左側に大無間山、池口岳、笹ヶ岳等々の山々、右側は遠く中央アルプスがうっすらと見え、後方は上河内岳、聖岳、赤石岳等々を眺めながら、気持ちよく稜線を歩く。誰も登って来ない、私達だけであった。そして茶臼岳 (2604m) の頂上に 5:45 着。360 度の眺めなのだが、遠くの中央、北アルプス方面は、霞がかかっていて、はっきり見えなかった。快晴なら槍の穂先も見えるそうなのだが、今日は残念 見えなかった。南アルプスの山々はよく見えた。光岳や光小屋も見えた。



茶臼岳頂上にて



茶臼岳からの聖岳

しばし眺望を楽しんだ後、今登ってきた道を、茶臼小屋分岐まで戻り、分岐でそのまま真っ直ぐに歩を進め、上河内岳に向かう。分岐から間もなくして、いっきに下る。下り終えて樹林帯の中を歩く。コバイケイソウの群落があったが、花の部分は全部、なくなっていた。鹿が食べてしまったのだろうか？樹林帯を抜けると、上河内岳が正面に見える広い湿原の様な窪地（草原）に出た。思わず歓声を上げる。ここからの上河内岳は素敵で格好がいい。背丈の低いハクサンフーロ、オトギリソウ、アキノキリンソウ、コゴメグサが沢山咲いていて可愛い。そこを過ぎ、灌木帯となり、森林限界を抜けると砂礫の道となり、今まで見られなかったイワギキョウ、ミヤマダイコンソウ、イワツメクサが沢山見られるようになった。岩と岩の間に芽を出し、風雨に負けず健気に美しい花を咲かせているのを見ると、いとうしくなり、励まされる。奇岩竹内門を通り過ぎ、間もなく上河内岳の肩に着く。そこで稜線と別れ、右に登って行く。10分位で上河内岳（2803m）の頂上に8:08着。360度の展望で、聖岳がより大きく見え、赤石岳、荒川三山、光岳、茶臼岳、大無間山、策ヶ岳等々が見えた。遠くの山は霞がかかってははっきりしなかった。



湿原の様な窪地（草原）と上河内岳



イワギキョウ



上河内岳頂上にて



茶臼小屋前のミヤマシシウド

しばし眺望を楽しみ下山する。往路をたどり、茶臼小屋で冷たい水を飲み、ゆっくり休憩する。茶臼小屋からも往路を辿り、横窪沢小屋 12:10 着。今日は計画通りここに泊まる。

小屋番の方二人が、自家発電機が壊れてしまったので、応急的に使えるようにと忙しく働いていた。忙しそうであったが、今日も冷たい麦茶をごちそうしてくれ、ここまで急坂が多く大変だったの

で、とても嬉しく美味しかった。「今日は自家発電機が壊れてしまったので、早めに夕食とさせていただきます。電気がつかない事を了承してください」との事。

今日の登山客は5人。夕食を美味しく頂いた後で、小屋番の方に誘われて、宴会に参加する。一人の方は飲めないからと不参加で、小屋番の方2人と、登山客4人で山の話に花を咲かせ、楽しいひと時を過ごした。小屋番の方の優しさに触れ、登山客も少なく、こんな小屋いいなあと思った。宴会が19:30にお開きとなり、小屋の寝具のシュラフに入り、明日の好天を祈りながら眠りに就く。

○7/26 (木) 天気 曇り時々晴れ

4:30 起床。5:00 朝食。横窪沢小屋を 5:35 に出発し下山する。往路と同じ道を辿る。

行く時には気が付かなかった所、ヤレヤレ峠の手前 1140m の所（沢の脇）に木苺の木があり、しばしそれを取って食べる。美味しかった。

さらに歩を進め、大吊橋まで帰って来る。大吊橋を渡り、茶臼岳登山口 8:40 着。予約したバスの時間は 10:40。あと2時間もある。バス停は屋根があり、座る所もあり、バスが来るまでそこで過ごす。間もなくして、横窪沢小屋で一緒に泊まった人が来て、その方がお湯を沸かし、コーヒーをご馳走してくれた。久しぶりのコーヒー、美味しく頂いた。私達はガスを持参しなかったのが嬉しかった。そしてバスに乗り、白樺荘 11:00 着。白樺荘で汗を流し、昼食を食べ、帰路に就いた。

○今回の山旅を終えて、

- ・夫の感想…上河内岳は思ったより素敵な山で、美しい山景と変化のあるコースと山頂からの眺望が良く、いい山だなと思った。

- ・私の感想…夫と同感である。特に、茶臼岳分岐から一気に下り、樹林帯を抜けた先にあった、広い湿原の様な窪地（草原）に出た時の感動が忘れられない。そこからの上河内岳はピラミダルで本当に格好が良かった。周りには小さい高山植物が沢山咲いていて（種類は少なかったが）本当に素敵な所であった。

上河内岳に行くまでは大変、まず茶臼小屋までが急坂の連続できつかったが、登りがいいのある良い山だなと感じた。茶臼小屋から光岳まで歩いてみたいなと思った。

夏山のベストシーズンなのに、入山者が少なく静かな山行が出来、良かった。